退任された先生方からのメッセージ

本来であれば、4月17日（金）に「退任式」を行い、昨年度までお世話になった7名の先生にたくさんの感謝をこちらから伝えるとともに、一人一人の先生から温かいメッセージをいただきたかったところですが、それはかないませんでした。

そこで、昨年度末に異動された 7 名の先生から、附中生の皆さんへのメッセージを預かりましたので、ここに紹介します。1年生の皆さんにとっては、直接知らない先生ばりかもしれませんが、今の附中生に向けたお言葉となっていますので、しっかりかみしめて読んでください。また、2・3年生の皆さんは、新しい附中を引っ張っていく立場として、心で受け止めてもらえればと思います。

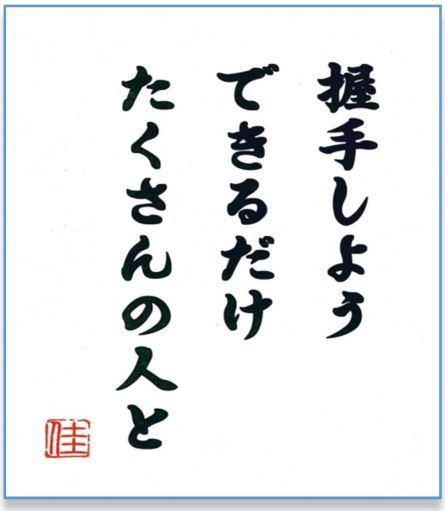
では、7名の先生のメッセージをじっくりと味わってください。

＜鈴木　佳樹　校長先生より＞

人間は一生のうち会うべき人に必ず会える。
しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないときに。
しかし、うちに求める心なくば、眼前にその人ありといえども、縁は生じず。
森信三（愛知県生まれの哲学者）の言葉

私は、この附中で、みなさんと必然の出会いを果たすことができました。

魅力あふれる附中生とともに、かけがえのない３年間を送ることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



みなさんは私に、出会いの数だけ、未来がより豊かに広がっていくことを教えてくれました。

****
たくさんの人々と出会おう
たくさんの書物と出会おう
たくさんの風景と出会おう
****

たくさんの出会いから広がり、深まっていく君の君らしい力強い歩みをいつまでも応援しています。

握手しよう　できるだけ　たくさんの人と

鈴木　佳樹

<山本　泰弘　教頭先生より>

附中はチャンスにあふれている。
しかし、自らつかみにいこうとしないと何も始まりません。

みなさんの先輩たちに呼びかけ続けた言葉です。

附中には、チャンスがあふれています。学習だけでなく、体育大会、文化祭、生徒会活動、宿泊行事等、活躍する機会、得意な分野を生かすチャンスが常にあります。こんなに、チャンスにあふれ、仲間が活躍している姿を見られる学校は、そうたくさんはありません。

しかし、チャンスにあふれていてもそのチャンスを自らつかみにいこうとしないと何も始まりません。待っているだけでは、何も変わりません。もしかしたら、チャンスをつかみにいこうとするときには、勇気が必要かもしれません。

チャンスをつかみ、成功することができたら、それはきっと成長につながるでしょう。もし、成功しなくても、自らチャンスをつかみにいったことが自信になるでしょう。

７年間お世話になりました。みなさんのがんばりをこれからも応援します。

山本　泰弘

<坂田　周一先生より>

Ｈ２９年度の自然体験活動。私が一番印象に残っている附中の行事です。場所も内容も決まっていない。何から始めればいいのか…。当時の先輩は、自分たちはどんな学年を目ざすのか、目ざす姿の議論から始めました。「仲間の思いを考えて行動できるようになること」を目標に掲げ、そのために互いのよさや自分の足りなさに「気づく」活動が必要だと考えました。そして、気づく活動（グループ分けや山のレベルにこだわった登山活動、複数回の炊飯活動）を考えていき、ようやくそれが実行できる活動場所を決めていくという流れでした。

仲間と議論し合いながら行事をつくっていくのは、かなり大変だったと思います。実行委員は何度も、実行委員会と学級を行き来して、行事の内容を決めていました。自然体験活動の最終日、仲間と語る会で今までの活動を振り返り、新たな学年の目標を決め、テーマソングを歌い終わったときの先輩の充実した顔は今でも忘れられません。

『私（私たち）は何を目ざすか』

これは、学習や生活、他のどの活動にも当てはまるし、附中が大切にしてきたことであると思います。行事を自分たちでつくるチャンスがある学校だからこそ、一人一人が「何を目ざすのか」にこだわって取り組んでみましょう。また、教科の追究や *Lifework* の活動でも、「何を目ざすのか」を決めて、自分から取り組むことで、必ず成長につながっていくはずです。目的意識をもって前向きに取り組むこと。本当の主体的な姿だと思います。

５年間、先生もたくさんの勉強をさせていただいたすてきな学校でした。みなさんや先生方にとても感謝しています。これからも、みなさんが活躍をすることを心から応援しています。

坂田　周一

<青木　宏羽先生より>

昨年度末から、コロナウイルスが世界を襲っています。「卒業式は、３年生と保護者と職員のみで行うことになりました。」卒業式の前日、そう３年生に伝えると、３年生は「最悪」「延期してできませんか」と口々に不満をもらしました。大好きな後輩たちに、大好きな附中を巣立っていく姿を見届けてほしかったのでしょう。「どんな卒業式になっても、あなたたちがすべきことは変わらない。本物は残る。」これが、私が卒業生に送った最後の言葉でした。

在校生にとっては、３年生よりも急に訪れた、クラスの仲間との別れ、学年の終わりの日になりました。そんな中、６時間中の３時間を、自分たちのためではなく、３年生のために使ってくれました。急きょ門送りを計画してくれました。校舎は、飾りつけでいっぱいでした。会場は細部まで心づかいが行き届いていました。卒業生がすべきことは、在校生と卒業式ができなかったことを悔やむことではない。この日本の決断が、自分の幸せだけを考えるのではなく、みんなの幸せにつながると信じ、感謝の思い、巣立ちの決意、本物だけをここに残して、笑顔で、未来への一歩を踏み出していきました。姿はなくても確かに感じた在校生の思い。心から、ありがとうございました。

１年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。２、３年生のみなさん、進級おめでとうございます。附中を選んで進んできた運命の仲間と、白か黒かでは判断できない本物の部分を、授業で、日常生活の中で、議論してください。自分のやってみたいことにおもいっきり挑戦してください。人間を磨いてください。愛し、愛される人になってください。一日一日を大切に、丁寧に過ごしてください。それができるから、ここ附中は「われらの学園」と呼ぶのだと、私が附中生と過ごす四年間で教えてもらいました。附中での縁を大事に生きていきます。お世話になりました。　　青木　宏羽

<木村　暢宏先生より>

ここなるつどい　ほこるべき

附属岡崎中学校には３年間お世話になりました。いろいろと印象深いことはありますが、とにかく一番印象に残っているのは附中ならではの追究授業です。個人追究でたくさんの情報を調べ、いろいろな場所に取材に行き、そこでたくさんの人の考えを聞いて、問題を解決しようとみんなで議論した授業は、どれも思い出深いです。オーストラリアの中学校や和歌山県の漁業組合の会長さんとテレビ電話をつないで議論したり、研究会当日に外国の専門家が突如乱入してきたりした「捕鯨の単元」は、特に思い出深いものになりました。

「今年はどんな授業ができるのかな」と楽しみにしている皆さんも多いのではないでしょうか。全国どこの学校と比べても、「授業が楽しい！」と言う子の多さは、附中がいちばんなんじゃないかと自信をもって言い切れます。

たくさんの外国の人と話をすることができたのも、附中の授業だったからこそできたことだと思っています。中学生にして、あんなにたくさんの外国の人と交流できる授業は、附中でしかできないと思っています。今年、英語の追究クラスになったみなさんは、ぜひ外国の人との交流や取材を楽しみにしていてくださいね。絶対にいい経験になるはずです。

生活の中の問題をとことん追究できることが、附中の何よりのよさです。このよさをぐいぐい推し進めていけるのは、みなさんの「問題を解決したい！」と思う熱量です。附中に集い、日本でここしかできない授業を行えることを、誇りに思ってください。私はこれで附中を去りますが、これからも附属の子が附属らしさをどんどん発揮していくことを、遠く高浜の地から応援しています。３年間、ありがとうございました。　　木村　暢宏

＜神谷　尚希先生より＞

３年間お世話になりました。

附中のよさ・すごさは何でしょう。追究授業？*Lifework*？行事？もちろんどれも附中ならでは、附中でしか経験できないものばかりであると思います。でも、いちばんのよさ・すごさは、間違いなく附中生の志の大きさです。

『自分たちでやるんだ』体育大会や文化祭で附中生がまさに「主体」となって動く姿。仲間とぶつかり、時には先生にもぶつかってきて、とにかく自分たちで全てやることにこだわって動く姿。附中生の志が大きいからこその姿でした。

『もっとやりたい』追究単元で、先生の想像を超える姿。「先生、休みに〇〇へ行って取材してきます」。意見交流では、「前考えていたことと真逆のことを言います。」追究したいと思ったらとことん追究し、日々更新していく考え。まさに志の大きい附中生の授業でした。

*Lifework*の発信活動では、専門家の話を聞くのではなく、２年かけて練り上げた自分の考えをもとに、専門家にぶつかってくる附中生。「取材」ではなく、「発信」であるのは、附中生の志の大きさ故だろうと感じました。

みなさんが附中入学のときに持っていた志を、更に強く大きいものにして、卒業式を迎えてください。そして、終わりを迎える卒業式ではなく、更にわくわくする一歩を踏み出す卒業式になるように、過ごしていってほしいと思います。

私は、これで附中を出ますが、岡崎市なのでみなさんとどこかで会うだろうと思います。ぜひ声をかけてくれるとうれしいです。濃い附中生活を過ごしてくださいね。

神谷　尚希

＜城所　美和先生より＞

３年生とは２年間、２年生とは１年間、一緒に過ごすことができました。あなたの何気ない言葉から心が癒され、あなたの笑顔につられてこちらも笑顔になり、気持ちがプラスの方向になりました。たくさんの思いやりと優しさをありがとうございます。

出会うことができたあなたに、贈りたい言葉があります。

感激はがんばっている人に
感動は心豊かに生きている人に
神様がくれた贈り物

同じ場所にいて、同じ体験をしていても、人によって感じ方やとらえ方、その想いはひとりひとり違います。それはきっと、その人が今までにどんな人と出会い、どんな経験をしてきたかによって変わってくると感じます。

一度しかない人生です。たくさんの感激をして、深く感動する人生を過ごしてほしいです。あなたのもとに素敵な贈り物が授かることを願っています。

養護教諭　城所美和

７名の先生方、今まで本当にありがとうございました。